

平成 26 年度特別養護老人ホームさの事業報告

1 事業運営

(1) 利用実績

月	特養 定員 100 名				ショート 定員 6 名			全体 106 名	
	実延 人数 a	入院 延日数	稼働率 a/ 延定員	退所 人数 (実)	実延利 用人数 b	緊急延 利用 (利用 者数)	ショート利 用率 (空床 利用含む)	実利用 (延べ) a+b=c	稼働率 c/(106×日 数)
年間	34,851	1,243	95.5%	22	2,812	8	128.4%	37,663	97.3%

*ショート稼働率 (ショート利用延人数/ショート延定員)

<説明>

*年間稼働率は前年度 (97.2%) と同等で推移している。特養の入院は 1 日平均 3.4 人いるが、1 日の在籍率が 98.7% となっているため、退所から入所までの期間を短縮し在籍率を高めていく必要がある。しかし、同月内に複数の退所者が続くことが多く対応に苦慮している。

空きベッドを活用したショートステイの利用率を高める方策を取る必要がある。

*退所者 22 名のうち看取りによる退所 10 名、転院 3 名、

*平均年齢 平成 27 年 3 月 83.4 歳 最高齢 100 歳 最年少 64 歳

②要介護度 (人数)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
27.3.31 現在	2		10	32	54	98
26.3.31 現在	1	2	7	43	46	99

<説明>

*年度末における平均介護度は 4.3 であり、昨年度と同様である。平成 27 年度より原則介護度 3 以上の方が入所対象となるため、平均介護度はこのまま推移していくと思われる。

(2) 苦情処理

職員対応	10	サービス内容	17
------	----	--------	----

<説明>

- ・家族懇談会や広報誌で職員対応サービスについて気づいた点があれば意見をいただけるようお願いしている。
- ・施設で受付の各苦情については、受付時に謝罪及び説明を行いご理解をいただいていることがほとんどであるが職員の対応については、サービスマナー研修を行うなどして改善していく必要がある。
- ・ご家族から寄せられて苦情については、職員に周知するとともに、1 階エレベーター乗り場の壁面に苦情内容と対応等の取り組みを掲示し、来所された方にもわかるようにした。

(3) 事 故

○ ひやりはつと報告件数

	転倒	転落	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	伝達 確認	忘失	異食	単独 外出	食事	破損	利用 者間	その 他	合計
26 年 度	12	21	5	2	1	6	13	54	0	8	0	5	6	7	140
25 年 度	29	19	6	1	0	6	3	2	2	5	0	0	2	6	81

○ 事故報告件数

	転倒	転落	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	伝達確認	忘失	異食	単独外出	食事	器具破損	利用者間	その他	合計
26年度	70	53	17	1	0	50	18	2	3	0	0	6	5	7	232
25年度	101	37	12	1	0	39	16	0	2	0	2	9	4	4	227

<説明>

- ① 転倒・転落は未然に防げたものはひやりはっとし、怪我は無くても転倒・転落してしまったケースは事故報告書として記載している。
- ② ひやりはっとの報告のうち忘失の増加は、身体拘束解除に向けた取り組みとして座面センサー・離床センサーを多く導入したため、センサー確認をこまめに行い、安全確認をした時のスイッチ入れ忘れや反応不良等を報告することで身体拘束解除を促進したことによるものである。
 今後は、センサー入れ忘れについては、使用している人が本当に必要なのに忘れているのか、入れてなくても問題がなく過ごしているのかなど検討していくこととしている。

(4) 利用者嗜好調査

- ・ 昨年同様、ご自分の好きな食べ物・嫌いなものは何か、給食は満足いただけているかに加え塩分についての設問を加えて3月に聞き取り方式で実施した。
- ・ 嫌いなものの設問では、4割近くの方があると回答。内訳としては麺類、肉や魚など、固いものが多かった。嗜好だけでなく、咀嚼や嚥下力の機能低下に伴い、食べにくくなっている事=嫌いという選択につながっていると推測される。
- ・ 塩分についての質問は、「ちょうど良い」「薄いがこのままで良い」の合計が全体で74%と現状で満足されていたが、男性は「味が薄すぎる」と感じている方が17%に対し女性0%、逆に「少し濃い」と「とても濃い」で男性16%、女性19%で女性は濃く感じている方が少し多かった。
- ・ 飲み込みや嚥下力低下者の対応として、嚥下調整食の導入後2年がたち、誤嚥しにくい形態で、見た目も味も美味しく提供できるようになった。残菜の量が確実に減ってしっかり召し上がれるようになっている。
- ・ 昨年より介護職を中心とした“生きがい活動”の中で手作りのおやつ作りや、出前で（うなぎやかつ丼など）お好きなものを注文できる楽しみも増えた。

(5) 東京都実地指導検査受審

26年度は隔年実施される実地指導が7月に行われた

○事故発生防止の研修の実施 ○療養食加算算定過誤 ○身体拘束を行った場合の記録
 上記の点について指摘、助言を受け改善した。

1 組織連携・多職種連携によるケアの推進

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
【チームケアの充実】	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームメンバー・チーム同士の連携は取れている。PDCA サイクルを行なう中でもリーダーが助言し、一人で悩まず実行できていた。ただ改善に関しては見直し期間が長く主任・係長・委員からプッシュされないこと進まない事もあった。 ・ ご利用者の日常の記録に記載量差があるため、サービス計画書に沿ったモニタリングを週間モニタリングとし担当が記載する事にした。記載がされているかどうかをリーダーがチェック表にてチェックする体制を作る。何もないと記載されない事が多く記録の工夫が必要である。 ・ ご利用者の状態把握や医療処置については、朝夕の申し送り、ファイルメーカー活用での記録、またサービス担当者会議等で情報の共有化が進み、他職種との連携が

	取れている。専門外来や検査受診も増えている事もあり各セクションでの協力が必須である
【重度・医療的ニーズの高い利用者や認知症の方への対応力の強化】 (評価 B)	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症研修などは新人職員が参加できるように、看取りに関する研修は中堅職員が参加できるよう配置した。看護師による褥瘡研修も具体的内容が確認できるなど参加しやすい環境であった。 ・医療的なケアが必要な利用者様の受け入れがスムーズにかつ安全に出来るよう看護との連携を強化してきた。また、今後も認知症の重度化に対し寄り添ったケアが出来るよう内部研修・外部研修を強化していきたい。 ・経口摂取移行取り組みが1名行われ1日3回の胃ろうから1回となり2食経口摂取となっている。今後も状態を観察しながら全面経口摂取される様経口維持の転換を図っていきたい。嚥下機能の低下された方も同様に維持に努めていく。 ・介護度にあったマットレスやエアマットの交換・購入を行い住環境の整備を行うと共に褥瘡予防・改善を図った。 ・看取り介護計画開始から終了まで主治医、職員全体及び家族と共有していくためカンファレンスを定期的に実施した。看取り評価について各現場で職員意見をまとめ反省と今後に生かせるようにした。今後は最終の看取り評価会議を実施し、今後のケアに生かせる取組をすることが課題となっている。
利用者・家族への説明と納得に基づく看取りケアの提供	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族懇談会の一環として、さので看取りケアを体験されたご遺族の方2名にお越しいただき、看取りケアを選択された時の具体的にご家族として準備されたことや心境をお話いただく機会を設けた。あらためて看取りケアを受けられた家族の心境を職員が知ることができ、今後のケアに向けてより一層ご家族とのコミュニケーションを大切にして取り組んでいく意識付けとなった。また、現在のご家族にとっても看取りケアを理解していただく大きなきっかけとなった。 ・今年度の看取りケアは10名であり、開始から延24名となった。26年度の課題としていた死去後に行う看取り評価カンファレンスを行い、職員からは前向きな意見が多く出るようになり、次に行われる看取りケアへの工夫につながってきた。
生活リハビリの実施	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレへの手引き誘導、車椅子座位のポジショニング等について、ご利用者の担当職員に個別に指導しリハビリにつながるよう研修を行った。 ・歯科医師の指導による呼吸法を取り入れ嚥下困難なご利用者に実施した。
口腔ケア等健康管理の推進	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師による嚥下内視鏡検査がご家族も参加しながら定期的に行われていることにより、より安全な食事形態・介助方法・摂食時の姿勢などご家族とともに確認しながら経口維持に努めることができた。 ・嚥下内視鏡のほか、歯科医師と看護・介護・相談等各職種が摂食状況を確認するミールラウンドにも取り組み、新しい経口維持加算の取得に向けた準備とすることができた ・カラオケの実施日を増やすことにより発声や飲み込みがしやすくなったりしてきたご利用者が出てきた。 ・日常の口腔ケアの実施については、各職員が今後とも清潔を保つことが健康維持に欠かせないことを意識して取り組んでいかなければならない。

2. 「生活の潤い」の確保

重点事業	結果 (成果説明、評価、今後の課題)
------	--------------------

生活空間の環境整備	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ご家族から要望のあった2階フロアの談話コーナーについて、廊下の一角を占有していた車イスを種類別に整理してスペースを確保し、天井からのパーテーションでプライバシーに配慮した談話コーナーが設置できた。 車椅子使用者で立ち上り時にブレーキをかけ忘れる方に、車椅子から立つとブレーキがかかる自動ブレーキ車椅子を導入して安全対策に努めた。このことによりT字ベルトを使用しているご利用者を減らすことができた。
個々の生活リズムに沿ったサービスの提供	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> レクレーションの実施に当たっては、季節を感じられるような話や歌を織り込むなどの工夫を行い、介護職員と機能訓練担当が協力しながら積極的に参加できるようにした。 体調の変化・ADLの低下により、トイレの誘導時間やオムツ交換の排泄時間を個々に調べ、それに合わせたリズム作りについては継続して行っている。 食事時間もその方の生活リズムを尊重し二部制にして提供している。
生きていることの意味を味わえるような行事等の実施	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ちょっとした合間の時間を使いレクを実施。ご利用者からは「今日は何するの？歌？体操？」という言葉も出てきた。職員も利用者様の声により短時間であっても進んでレクを実施するようになった。 フロアチームごとに「生きがい活動」としておやつ作りや出前食を実施した。ご利用者の要望にどのように応えていくか今後の課題でもある

3. 信頼される施設づくり

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
家族との目標の共有と協力関係の確保	<p>成果説明</p> <p>(看護)</p> <p>サービス担当者会議で家族への説明を行った。健康状態に応じ細かい医療的な説明を行うように主治医へ働きかけ家族の理解を得る場面を増やすことができた。要介護度が高い方の入所に伴い、身体状況・病状等の情報を共有・確認を行うため家族とともに受診して、医療・介護ケアあり方について話し合える環境を整えた。</p> <p>(介護)</p> <p>25年度の課題で上がっていた身体拘束者の増加では、東京都の指導検査をきっかけに委員を中心として意識改革を行った。委員会では職員の疑問、不安を共有し、会議の進め方・方法などを細かく決め取り組む。サービス担当者会議では家族に拘束のあり方を説明し、解除に向けて取り組んでいく事を説明した。その結果H27年3月には5名となった。</p>
	<p>(機能訓練)</p> <p>個別機能訓練計画書や訓練記録用紙の変更を行い、機能訓練についてご家族に分かり易く理解できるようにした。</p> <p>(相談)</p> <p>サービス担当者会議を日曜日にも開催することにより、家族参加者が増えた。家族と直接話をする事で目標を共有することができ、関係づくりができた。</p> <p>嘱託医の専門外の疾病については、協力病院以外から施設職員の付き添いだけでなく、家族の同行が病院から求められることが多い。ご家族にご理解いただき受診の同行をお願いしていく。</p>

平成 26 年度足立区さのデイサービスセンター事業報告

1 事業運営

さの通所介護 通常規模施設 (1月 750 人以内)

さの 認知症デイ 1日 24 名

(1) 利用実績

<月別利用者> 上段 1日平均利用者数 (単位:人) 下段 稼働率【対月 750 人】(単位:%)

○一般デイ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	一日平均	前年度
872	884	846	902	858	819	819	777	796	759	791	886	32.4	32.6
116	117	112	120	114	109	109	103	106	101	105	118	109%	112%

○認知症

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	一日平均	前年度 1日
422	433	416	454	406	400	402	365	387	361	336	362	15.4	16.6
67.6	66.8	69.3	70.1	65.1	64.1	62.0	60.8	64.5	62.7	58.3	58.0	64.2	69.1%

<要介護度状況>

(平成 27 年 3 月登録者比率%)

割合	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	平均 要介護度	平均年齢
通所	30	25	25	11	9	2.5	82.0
認知症	6	13	26	26	2	3.6	83.6

介護予防 通所	要支援 1	要支援 2	平均年齢
	20	80	80.2

(2) 苦情処理 ・ 状況報告書

サービスの質	12	職員の対応	4
--------	----	-------	---

(3) 事 故

○ひやりはっと

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離設	食事	破損	伝達確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
26 年度	7	2	3	3	20	2	0	14	1	9	4	3	0	0	0	2	70
前年度	8	2	4	1	0	0	1	21	0	13	0	0	12	0	0	1	63

○事故報告件数

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離設	食事	破損	伝達確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
26年度	16	1	12	5	10		13	46	3	3	4	1	15			3	132
前年度	12	1	12	2	7	0	4	24	0	1	0	3	20	0	4	4	94

*説明

帰宅車中で車椅子の方が後方に転倒することがあった。車椅子固定安全確認や、車中での緊急時の対応研修を行い再発防止に努めた
 利用者の荷物返却忘れや、利用者間での返却間違いが目立った。

(4) 嗜好調査

- ・今年度は、塩分についての質問を加えたが塩辛いものをよく食べる方が約30%、食べない様に注意している方が31%、あまり食べないが25%で半数の方は日頃から注意しており、実際に汁の回数は1～2回が多く卓上しょうゆの回数も0～2回程度が多い結果となった。
- ・また汁もの以外で毎日食べるものは、漬物が約半数の方、梅干しが約1/4の方があげていた。
- ・塩加減については普通とややうすめで70%を占め、ふだんから塩分取り過ぎに注意している方が73%だった。さのデイサービスの給食の塩分についてはちょうど良いが78%であった。
- ・満足度については96%が不満はないという回答で昨年同様に多くの方に満足いただいていた。しかし、不満の中に数名、魚がパサパサしてまずいとの意見があった。他に要望としてあがっている刺身や寿司・天ぷらなど定番の人気のものが献立希望にあがっていた。

(5) 東京都実地指導検査受審

○文書指摘なし

2 26年度重点事業の結果

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
1. ご利用者への丁寧なサービス提供	
1) 通所介護 ニーズに応じた 楽しい場所作り	成果 軽度の認知症状があっても一般通所介護を選択されるご利用者への対応、ADLの低下により静養する時間の多いご利用者への対応など幅広いケアの提供のために安全で居心地の良いデイを目指した。
2) 認知症通所介護 ご利用者の状態に 合わせた幅のある 活動の設定	成果 ・26年度は内容を細かく設定し、季節を感じる活動を中心に生活習慣や幼少時を思い出し振り返る活動が充実できた。 ・家事活動として役割・達成感の充実までは至らなかったものの、タオルたたみ以外での家事活動（調理や作業等）が行えた。 ・見守りボランティアが定着し、職員がより重度の方への個別対応に関わることができた。（平均 週 3回 程度）
家族支援の強化	成果 ・連絡帳、送迎時にご家族との情報共有が行えるよう努めた。 ・担当者会議にも職員間でシフト調整し可能な限り出席し、情報をケアマネ、家族へ伝えることが出来た。 ・年度末に家族懇談会を実施し、施設・家庭での様子を確認するとともに

	ご家族同士の介護の不安や苦労を共有できる場として好評を得た。改正についての説明会もあり、昨年よりも多くの方が参加された
2. 職員のスキルアップ	
① 職員の認知症への理解と対応、情報の共有の工夫 ② 介護支援中の事故を起こさない ③ 送迎や連絡、忘れ物など単純なミスをなくす (評価C)	成果 ① 正規職員は7日間の東京都認知症実践者研究、契約職員は同研修公開講座2日間の研修に全員が参加するよう例年計画している。 ② 送迎車内で車椅子ごと後ろへ転倒し、一時回復するも2か月後に死亡する事故となった。事故後、すぐに原因と発生環境を検証し、職員の安全確保への作業手順と声出し確認の周知徹底を図った。 また、緊急時の対応についての研修を行った。 ③ 添乗職員・帰宅準備職員・リーダー職員で荷物確認を行った課題 ・忘れ物の二重確認は行っていたが帰宅後に発見することも多々あり完全にミスがなくなることはなかった。

平成 26 年度足立区谷中デイサービスセンター事業報告

1 事業運営

(1) 利用実績

<月別1日平均利用者数> 定員1日12名 309日稼働
 *上段 1日平均利用者数(単位:人) 下段 稼働率(単位:%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日平均	前年度
195	196	179	213	216	201	190	198	214	180	160	181	7.7	7.1人
62.5	60.5	59.7	65.7	69.2	64.4	58.6	66.0	71.3	60.0	55.5	58.0	64.2	59.3%

<要介護度分布>

(平成26年3月登録者)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度	平均年齢
0	0	23.5	41.2	29.4	5.8	0	2.2	79.8歳

(2) 苦情処理 ・ 状況報告書

サービスの質に関すること	2
--------------	---

(3) 事故

○ひやりはっと

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離脱	食事	破損	伝達確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
26年度	3	1	1	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	1	11
25年度	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	3	1	0	1	12

○事故報告件数

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離設	食事	破損	伝達確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
26年度	3	0	4	1	0	0	0	0	1	4	0	0	5	0	0	8	26
25年度	3	0	1	0	0	0	1	1	0	2	0	4	1	0	0	0	13

*説明 転倒等による骨折を要する事故は発生していないが受診したことで保険請求事故が一件有。

2 平成 26 年度重点事業の結果

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
1. サービス提供時間変更への対応	
近隣の認知症施設との差別化を図り、経営の安定につなげる。	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・谷中デイならではの農園活動や屋外散歩・買い物活動などを利用者様にも選択していただける環境を作り、その日のメンバーと共に活動内容を決めている。少人数ならではの柔軟なプログラムが行えた。
2. 事業所の特色づくり	
住み慣れた地域との連携や家庭的な雰囲気大切にす。	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の認知症状に合わせた入浴時間の設定や活動の工夫で個別の支援ができ、少人数の谷中ならではの良さが出せた。 ・次年度は谷中中学校ボランティア部を中心とした生徒の参加しやすい環境づくりを目標に工夫をしていく。
3. 家族支援の強化	
<p>①職員の気づきの力を高め、家族支援につなげる。</p> <p>②家族懇談会の実施により、安心して話のできると施設と家族及び家族間の関係の構築を図る。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への報告は連絡帳の記載を丁寧にし、また定期的に活動の様子を写真で伝え喜ばれた。活動内容を理解して頂くことで、円滑な通所に繋がることもあった。 ・家族との情報の共有に力を入れ、ご利用者だけではなく家族の介護負担の把握や問題点を早期発見、自宅での状況などを聞くことでアドバイス、CMへの橋渡しなどに心掛けた。ご家族と密に連絡することで信頼関係も出来、気軽に相談していただける関係性を目指した。 ・年度末にさのデイと合同で家族懇談会を開催。他者の介護の話が直接聞いて力になったと好評であった。
4. 介護事故を起こさない。	
<p>① 環境の整備、点検を行う。</p> <p>② 職員の介護技術の向上のため職場内研修の実施</p> <p>③職員の動きの見直し</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒事故はあったが骨折等の大きな事故なく過ごすことが出来た。 ・担当職員間の会議を定期的に行うことで情報や留意点の確認ができ、職員間の連携や事故防止にも繋がった。

平成 26 年度 足立区さの指定居宅介護支援事業所事業報告

1 事業運営

職員数 4名 (正規2 契約職員 2名)

(1) 利用実績

1 ケアプラン数 (平成 25 年 4 月～26 年 3 月)

上段・・・介護プラン数 下段・・・予防プラン数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
137	134	137	138	136	140	136	136	132	129	128	129	1612
8	8	8	8	7	9	8	8	9	7	7	7	94

総ケアプラン数(H25年4月～3月)

介護給付プラン数 1612 件 (25 年度 1592 件) 1ヶ月平均 134.3 件 (132.6 件)
 予防給付プラン数 94 件 (25 年度 149 件) 1ヶ月平均 7.8 件 (12.4)

2 介護認定調査数 (H25 年 4 月～H26 年 3 月)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
22	21	21	21	19	13	22	20	18	22	17	20	236

総認定調査数 236 件 (25 年度 255 件) 1ヶ月平均 19.6 件 (21.3 件)

(2) 苦情処理

相談・苦情数 相談 0 件 苦情 2 件

- ・独居利用者ご家族より、担当ケアマネジャーに対し不信感がある。ケアマネジャーを変更して欲しいとの旨話有り。
- ・独居利用者自身より、担当ケアマネジャーの言葉かけ等に対し不満が有る。ケアマネジャーを変えようと思っている旨、併設デイ職員を通じ話有り。
- ・その他、利用者・ご家族より、併設のデイ・ショートステイ職員の対応に不満があがることもあったが、定期・臨時訪問し、誠意を持って対応する事で苦情にまでは至らず。

2 26 年度重点事業の結果

重点事業	結果 (成果説明、評価、今後の課題)
1. 主任介護支援専門員を 3 名擁する事業所として地域に貢献する。	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターから困難ケースの依頼があった際は、積極的に受け付け、包括や関係機関と協働する事に努めた。 困難ケース：4 件 (その他、対応に苦慮するケース 16 件有) ・ケアプラン数 要介護者 1612 件 (一人当たり 33.58 件/月) (目標に対し、95.95%の達成) 要支援者 94 件 (一人当たり 1.96 件/月) ・特定事業所加算の継続 夜間相談 31 件 休日相談 54 件 その他平日早朝等 74 件 : 合計 159 件 (昨年は 227 件) に対応してきた。

	<p>緊急対応を要する電話は殆ど無く、特定の利用者からの電話が大多数であった。受電件数が減少した要因として、定期的に電話を下さる利用者の1人が入院された事や、受電した職員の対応によりいつでも連絡が付くと安心してもらえた事が挙げられる。その他は主にサービスの変更や入院・関係機関からの連絡で、警備員・特養職員・日直職員と連携を取りスムーズな引継ぎを行う事が出来た。</p> <p>・年間認定調査数 236件（昨年は255件）。月平均 19.66件 昨年度に比べ、対応件数は19件減少した。要因は、受け持ちケースの中で、対応困難な方が増えた事もあり、調査件数をセーブした時もあった。</p>
<p>2. 指定居宅介護支援運営基準を遵守する</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケアネットワーク・事例検討会・認知症研修・医療と介護の連携検討会・居宅部会等、必要な研修に参加し、職員間で共通認識を持つ事が出来た。 ・自立生活支援の理念に添ったケアプランを作成するため利用者各自の思いや有する能力を最大限引き出せるようなプランの作成・更新を行ってきた（住区センターでの催し物や地域社会との交流が出来るようなプラン作成を心掛けた）。 ・関係機関に対しては、サービス担当者会議や日頃の連絡などで、利用者支援の共通認識を持つ努力を行った。 ・週1回居宅会議を開催し、職員間の共通認識を持ち、協働体制を整えた。

平成26年度 足立区地域包括支援センターさの事業報告

1 事業運営

職員数 8名（常勤 専任 4名 契約 3名 専任事務パート1名）

(1) 利用実績

○ 支援センター項目

1 相談件数 (数字) 昨年度

来 所	電 話	訪 問	合 計
1127 (1063)	3318 (3595)	1570 (1684)	6015 (6342)

2 相談者 (数字) 昨年度

本 人	家族・ 親戚	民生 委員	協力員	公的 機関	医療 機関	近隣 住民	ケア マネ	事業者 等	その他	合 計
2136 (2149)	1270 (1339)	43 (80)	29 (20)	676 (698)	293 (370)	133 (153)	1012 (998)	383 (480)	40 (47)	6015 (6342)

3 相談内容 (数字) 昨年度

介護 予防	介護 保険	医療	他サービ ス紹介	ケア マネ 支援	絆の あんしん ネット	介護等	サービ ス 取次ぎ	権利 擁護	消費者 被害	虐待支 援困難
625 (518)	2737 (2540)	571 (564)	705 (782)	114 (140)	33 (21)	1671 (1206)	131 (154)	186 (226)	38 (27)	1169 (756)

絆づく り	その 他	合計
なし (141)	4 (92)	7984 (7005)

4 加算事業 (数字) 昨年度

実態把握	介護予防 プラン作成	家族介護者 教室	介護予防 教室	地域ケア ネットワーク	緊急対応
1870 (1844)	165 (122)	7 (4)	24 (28)	2 (4)	0 (0)

5. 新予防給付 下段数字は昨年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直 営	126 (145)	125 (138)	122 (139)	124 (138)	122 (135)	125 (135)	125 (130)	122 (129)	118 (129)	112 (127)	117 (126)	118 (127)	1456 (1598)
委 託	94 (78)	93 (75)	92 (78)	93 (83)	88 (87)	95 (95)	99 (93)	103 (95)	104 (101)	106 (96)	103 (89)	104 (90)	1174 (1060)

(2) 苦情処理、事故

なし

2 平成25年度重点事業の結果

重点事業	結 果 (成果説明、評価、今後の課題)
1 総合相談・支援事業 <相談受付 (スクリーニング) の機能強化> <地域ケア会議の充実>	成果 1) チームアプローチの重視 新規採用職員には相談受付 (スクリーニング) から指導。緊急性の高い相談が増えているため、相談受付の段階で緊急性の判断を誤らないよう必ずチームで検討する体制を確保する。 成果 1) 地域包括支援ネットワークの構築 センター単位の (小) 地域ケア会議4回、ブロック単位の (中) 地域ケア会議1回開催。初期対応から多機関との連携が必要な事例も多く、地域ケア会議の開催によって関係者との連携強化に繋がっている。
2 権利擁護事業 <高齢者虐待対応の評価と	成果 1) 終結を意識した対応

<p>終結＞</p>	<p>進行管理表の活用により、月1回の所内会議で実施状況の評価を行う。高齢者虐待対応としては終結し、包括的・継続的ケアマネジメント支援へ移行した事例やセルフネグレクト状態から介護保険サービスに繋がった事例もある。</p>
<p>3 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業 ＜医療と介護の連携体制の構築＞</p> <p>＜認知症支援の充実＞</p>	<p>成果</p> <p>1) 「医療と介護が連携できる地域づくり」検討会の開催 「超高齢社会における在宅と医療連携の動向」をテーマに実施。圏域内の新設老人保健施設で開催し、その後、参加者で施設見学も行う。</p> <p>成果</p> <p>1) 家族介護者教室・地域ケア会議の開催 家族介護者教室や地域ケア会議において認知症疾患医療センターの協力を得る。認知症カフェの開催に向けて見学や研修参加により情報収集を行う。</p>
<p>4 介護予防ケアマネジメント事業 ＜介護予防事業の推進＞</p>	<p>成果</p> <p>1) セルフプラン作成者の増加 二次予防事業「らくらく教室」の参加者（年間延べ81名）が引き続き介護予防教室「貯筋教室」や、ゆうあいらんど・さのの自主事業「ひなたぼっこ事業」へ参加。介護予防の必要性を理解し、9名がセルフプランを作成した。</p>
<p>5 足立区孤立ゼロプロジェクト ＜効果的な事業の推進＞</p>	<p>成果</p> <p>1) 町会・自治会との連携体制の構築 圏域内の12町会・自治会が取り組みを開始。うち8町会・自治会の実態調査が終了している。調査対象者629世帯のうち要支援者は120世帯、不在・不同意43世帯であった。センター職員による初回訪問（アセスメント）は77世帯終了。担当職員が町会・自治会の説明会に参加をしているため、実態調査の段階から相談が入りやすくなっている。絆のあんしん連絡会は年5回実施。参加者数が非常に多くなっている。</p>